

蒸留試験 50 ~ 80 °C, 90 vol% 以上.

貯法

保存条件 火気を避け, 30 °C 以下で保存する.

容器 気密容器.

セスキオレイン酸ソルビタン

Sorbitan Sesquioleate

ソルビタンセスキオレイン酸エステル

本品は無水ソルビトールの水酸基の一部をオレイン酸でエステル化したもので, モノエステル及びジエステルの混合物である.

性状 本品は微黄色～淡黄褐色粘性の油状の液で, わずかに特異なおいがあり, 味はやや苦い.

本品はジエチルエーテルに溶けやすく, エタノール (95) に溶けにくく, メタノールに極めて溶けにくい.

本品は水に微細な油滴状となって分散する.

確認試験

(1) 本品 0.5 g にエタノール (95) 5 mL 及び希硫酸 5 mL を加え, 水浴上で 30 分間加熱する. 冷後, 石油エーテル 5 mL を加えて振り混ぜ, 静置した後, 上層及び下層を分取する. 下層 2 mL に新たに製したカテコール溶液 (1 → 10) 2 mL を加えて振り混ぜ, 更に硫酸 5 mL を加えて振り混ぜるとき, 液は赤色～赤褐色を呈する.

(2) (1) の上層を水浴上で加熱して石油エーテルを蒸発する. 残留物に薄めた硝酸 (1 → 2) 2 mL を加え, 30 ~ 35 °C でかき混ぜながら亜硝酸カリウム 0.5 g を加えるとき, 液は白濁し, これを冷却するとき, 結晶が析出する.

比重 d_{20}^{20} : 0.960 ~ 1.020

けん化価 150 ~ 168

純度試験

(1) 酸 本品 2.0 g に中和エタノール 50 mL を加え, 水浴上で 1 ~ 2 回振り混ぜながらほとんど沸騰するまで加熱する. 冷後, 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 4.3 mL 及びフェノールフタレイン試液 5 滴を加えるとき, 液の色は赤色である.

(2) 重金属 本品 1.0 g をとり, 第 2 法により操作し, 試験を行う. 比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (20 ppm 以下).

(3) ヒ素 本品 1.0 g をとり, 第 2 法により検液を調製し, 装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下).

水分 3.0 % 以下 (1 g, 直接滴定, 30 分間かき混ぜる).

強熱残分 1.0 % 以下 (1 g).

貯法 容器 気密容器.

セタノール

Cetanol

本品は固形アルコールの混合物で, 主としてセタノール ($C_{16}H_{34}O$: 242.44) からなる.

性状 本品は白色の薄片状, 粒状又は塊状のろうよう物質で, わずかに特異なおいがあり, 味はない.

本品はピリジンに極めて溶けやすく, エタノール (95),

エタノール (99.5) 又はジエチルエーテルに溶けやすく, 無水酢酸に極めて溶けにくく, 水にほとんど溶けない.

融点 47 ~ 53 °C 第 2 法の操作法により, 試料を調製した後, 毛细管を温度計の下部にゴム輪又は適当な方法で密着させ, 毛细管の下部と温度計の下端をそろえる. この温度計を内径約 17 mm, 高さ約 170 mm の試験管に挿入し, 温度計の下端と試験管の底との間が約 25 mm になるようにコルク栓を用いて温度計を固定する. この試験管を水に入れたビーカー中につるし, 水を絶えずかき混ぜながら加熱する. 予想した融点より 5 °C 低い温度に達したとき, 1 分間に 1 °C 上昇するように加熱を続ける. 試料が透明になり, 濁りを認めなくなったときの温度を融点とする.

酸価 1.0 以下.

エステル価 2.0 以下.

水酸基価 210 ~ 232

ヨウ素価 2.0 以下.

純度試験

(1) 溶状 本品 3.0 g をエタノール (99.5) 25 mL に加熱して溶かすとき, 液は澄明である.

(2) アルカリ (1) の液にフェノールフタレイン試液 2 滴を加えるとき, 液は赤色を呈しない.

強熱残分 0.05 % 以下 (2 g).

貯法 容器 密閉容器.

セッコウ

Gypsum

GYPSUM FIBROSUM

石膏

本品は天然の含水硫酸カルシウムで, 組成はほぼ $CaSO_4 \cdot 2H_2O$ である.

性状 本品は光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で, 砕くと容易に針状～微細結晶性の粉末となる.

本品はにおい及び味がない.

本品は水に溶けにくい.

確認試験 本品の粉末 1 g に水 20 mL を加え, しばしば振り混ぜながら 30 分間放置した後, ろ過する. ろ液はカルシウム塩の定性反応 (2) 及び (3) 並びに硫酸塩の定性反応を呈する.

純度試験

(1) 重金属 本品の粉末 4.0 g に酢酸 (100) 4 mL 及び水 96 mL を加え, 10 分間煮沸し, 冷後, 水を加えて正確に 100 mL とした後, ろ過する. ろ液 50 mL を検液とし, 試験を行う. 比較液は鉛標準液 4.0 mL に希酢酸 2 mL 及び水を加えて 50 mL とする (20 ppm 以下).

(2) ヒ素 本品の粉末 0.40 g をとり, 第 2 法により検液を調製し, 装置 B を用いる方法により試験を行う (5 ppm 以下).

貯法 容器 密閉容器.